YAMAHA 2018

サービスマニュアル

XSR900

MTM850

B90-28197-J1

JAS20003

はじめに

このサービスマニュアルは、ヤマハモーターサイクルの販売店および整備士が使用することを考慮して、ヤマハ発動機株式会社が作成しています。一つのマニュアルに整備上の全知識を網羅することは不可能です。そのため、本書を使用してヤマハモーターサイクルの修理および点検を行なう場合には、モーターサイクルの一般的な修理に関する基本的な技能と知識を持っていることが前提となります。基本的な整備情報については、別冊の “ベーシックインフォメーション”（Y0A-28197-J0*）を参照してください。これらの知識や技能を持たない人が修理や点検を行なうと、モーターサイクルの安全性が損なわれたり、使用に適さなくなったりするおそれがあります。
ヤマハ発動機では製品を改良するために常に努力しています。仕様あるいは作業手順に関して、改良や著しい変更があった場合には、その内容は、すべてのヤマハモーターサイクル正規販売店に通知され、将来のサービスマニュアル改訂版に反映されます。

要　点

記載内容や仕様などは車両改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

JAS30001

本書の重要な情報

本書では、重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**

⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**

注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**

要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

JAS20002

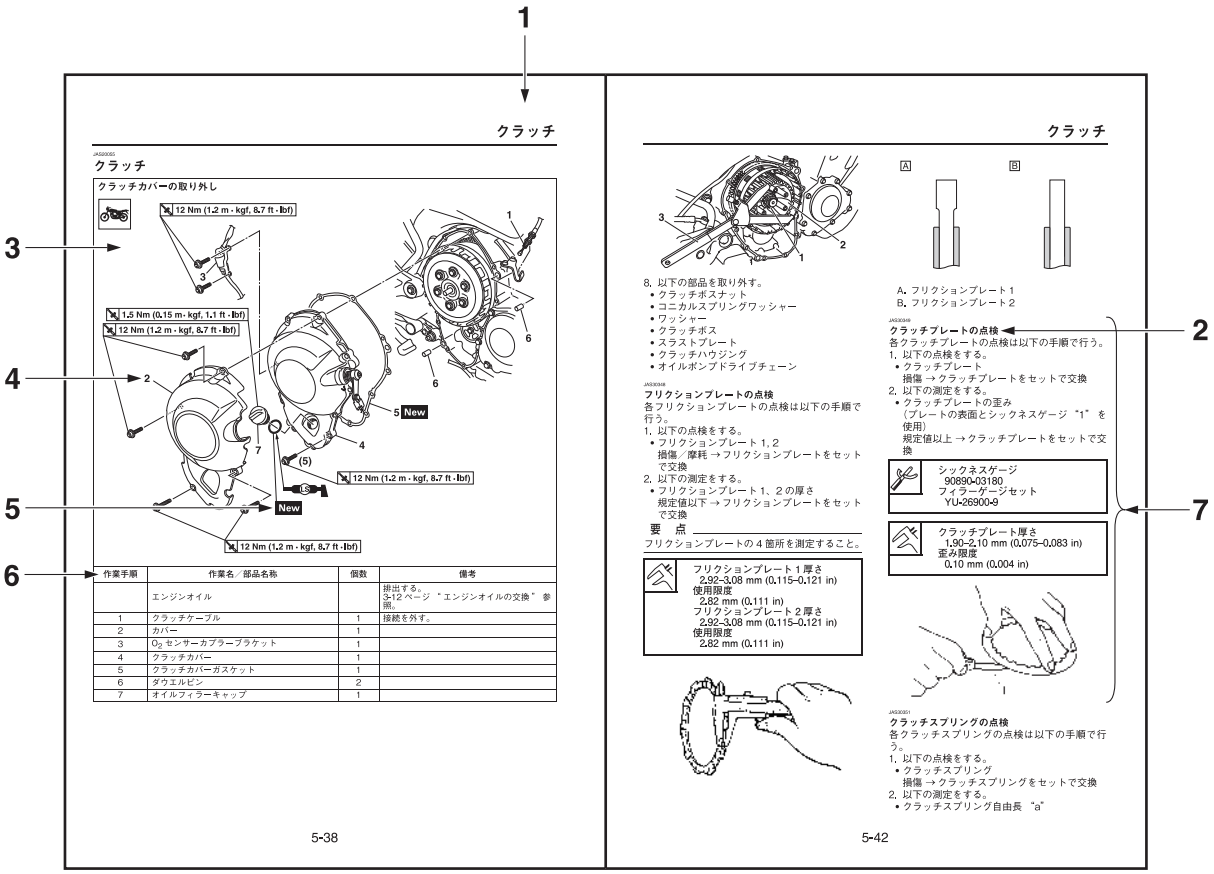
XSR900 サービスマニュアル
2017年9月発行
不許複製
編集発行　**ヤマハ発動機株式会社**

JAS20004

本書の使い方

本書は、サービスマンの参考用として使いやすく、読みやすい編集にしてあります。取り付け、取り外し、分解、組み付け、修理および点検手順に関するすべての説明は、個々の手順を追うようになっています。

- 本書は章に分かれており、また、各章は項に分かれています。現在の項見出し “1” は、各ページの上端に記載されています。
- 小項の見出し “2” は、項見出しより小さな活字体で示してあります。
- 部品を特定し手順を明確にするために、取り外しや分解の項のはじめには立体分解図 “3” を記載しています。
- 立体分解図には、作業の順番を示す番号 “4” が付けてあり、それぞれの番号は分解手順を示しています。
- 記号 “5” は、潤滑または交換すべき部品を示しています。
  “ シンボルマーク ” 参照。
- 作業指示図 “6” は立体分解図に付随し、作業の順番、部品名、作業時の注意などを示します。
  このステップは取り外しと分解の手順のみ説明しています。組み付けと組み立ての手順はステップを逆に行ってください。
- 追加情報（特別工具や技術データなど）を必要とする作業 “7” は順に記述しています。



目次

総説編	1
サービスデータ編	2
点検・調整編	3
車体編	4
エンジン編	5
冷却システム編	6
フューエルシステム編	7
電装編	8
付録	9

JAS20017
締付トルク

JAS30016
エンジン締付けトルク

項目	ネジ径	個数	締付トルク	整備情報
エキゾーストパイプナット	M8	6	20 N·m (2.0 kgf·m, 15 lb·ft)	
マフラープロテクターボルト	M6	3	10 N·m (1.0 kgf·m, 7.4 lb·ft)	
スパークプラグ	M10	3	13 N·m (1.3 kgf·m, 9.6 lb·ft)	
シリンダーヘッドカバーボルト	M6	4	10 N·m (1.0 kgf·m, 7.4 lb·ft)	
ジェネレーターローターボルト	M12	1	75 N·m (7.5 kgf·m, 55 lb·ft)	
ジェネレーターカバーボルト	M6	2	12 N·m (1.2 kgf·m, 8.9 lb·ft)	
ジェネレーターカバーボルト	M6	8	12 N·m (1.2 kgf·m, 8.9 lb·ft)	
クラッチボスナット	M20	1	125 N·m (12.5 kgf·m, 92 lb·ft)	タブを曲げる
クラッチスプリングボルト	M6	3	10 N·m (1.0 kgf·m, 7.4 lb·ft)	
クラッチカバーボルト	M6	11	12 N·m (1.2 kgf·m, 8.9 lb·ft)	
オイルフィルターカートリッジ	M20	1	17 N·m (1.7 kgf·m, 13 lb·ft)	
オイルフィルターカートリッジユニオンボルト	M20	1	70 N·m (7.0 kgf·m, 52 lb·ft)	
ウォーターポンプドレンボルト	M6	1	10 N·m (1.0 kgf·m, 7.4 lb·ft)	
エンジンオイルドレンボルト	M14	1	43 N·m (4.3 kgf·m, 32 lb·ft)	

JAS30017
車体締付けトルク

項目	ネジ径	個数	締付トルク	整備情報
フロントホイールアクスル	M16	1	65 N·m (6.5 kgf·m, 48 lb·ft)	
フロントホイールアクスルピンチボルト	M8	1	23 N·m (2.3 kgf·m, 17 lb·ft)	
リヤホイールスプロケットナット	M10	6	80 N·m (8.0 kgf·m, 59 lb·ft)	
リヤホイールアクスルナット	M18	1	150 N·m (15 kgf·m, 111 lb·ft)	
リヤブレーキキャリパーボルト（前側）	M12	1	27 N·m (2.7 kgf·m, 20 lb·ft)	
リヤブレーキキャリパーボルト（後側）	M8	1	22 N·m (2.2 kgf·m, 16 lb·ft)	
ブレーキキャリパーブリードスクリュー	M8	3	5 N·m (0.5 kgf·m, 3.7 lb·ft)	
フロントブレーキキャリパーボルト	M10	4	35 N·m (3.5 kgf·m, 26 lb·ft)	
アッパーハンドルバーホルダーボルト	M8	4	22 N·m (2.2 kgf·m, 16 lb·ft)	
ロアーハンドルバーホルダーナット	M10	2	40 N·m (4.0 kgf·m, 30 lb·ft)	
クラッチケーブルロックナット	M8	1	7 N·m (0.7 kgf·m, 5.2 lb·ft)	
ロアーブラケットピンチボルト	M8	4	23 N·m (2.3 kgf·m, 17 lb·ft)	
アッパーブラケットピンチボルト	M8	2	26 N·m (2.6 kgf·m, 19 lb·ft)	
ロアーリングナット	M25	2	要点を参照	

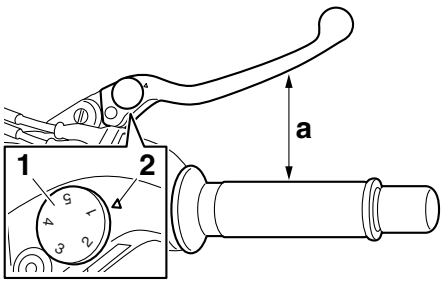
JAS20024
車体

JAS30070
フロントディスクブレーキの調整
1. 以下の調整をする。
   • ブレーキレバーポジション
   （スロットルグリップからブレーキレバーまでの距離 “a”）

要　点

• ブレーキレバーを前方に押しながら、ブレーキレバーが好みの位置になるまでアジャスティングダイヤル “1” を回す。
• アジャスティングダイヤルの数字をブレーキレバーホルダーの矢印 “2” に合わせること。

ポジション #1
距離 “a” 最大
ポジション #5
距離 “a” 最小



JWA17050
⚠ 警 告

• ブレーキレバーの位置を調整した後で、ブレーキレバーホルダーのピンがアジャスティングダイヤルの孔にしっかり差し込まれていることを確認する。
• ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられる場合は、ブレーキシステムにエアーが入っている可能性がある。車両を運転する前に、ブレーキシステムのエアーを抜くこと。ブレーキシステムにエアーが混入するとブレーキ性能が大幅に低下し、車両を制御できなくなって事故を起こす危険がある。そのため、確認の上、必要であればブレーキシステムのエアーを抜く。

JCA13490
注 意

ブレーキレバーの調整後、ブレーキの引きずりがないことを確認する。

JAS30072
リヤディスクブレーキの調整
1. 以下の調整をする。
   • ブレーキペダルポジション
   a. ロックナット “1” を緩める。
   b. 規定のブレーキペダルポジションになるまでアジャスティングボルト “2” を回し調整する。

JWA20310
⚠ 警 告

ブレーキペダルのポジションを調整後、アジャスティングボルト “a” の先端部が “b” の孔から見えるか確認すること。

   c. 規定値のトルクでロックナット “1” を締め付ける。



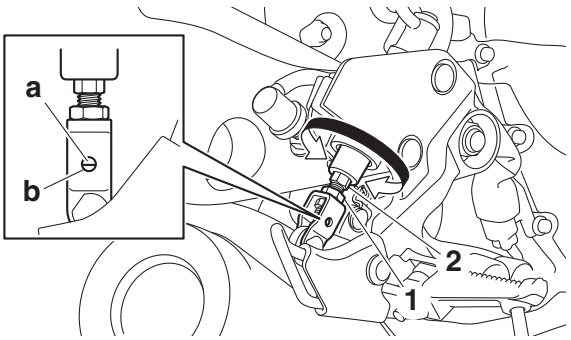
リヤブレーキマスターシリンダーロックナット
18 N·m (1.8 kgf·m, 13 lb·ft)

JWA17030
⚠ 警 告

ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられる場合は、ブレーキシステムにエアーが入っている可能性がある。車両を運転する前に、ブレーキシステムのエアーを抜くこと。ブレーキシステムにエアーが混入すると、ブレーキ性能が大幅に低下する。

JCA13510
注 意

ブレーキペダルポジションの調整後、ブレーキの引きずりがないことを確認する。



2. 以下の調整をする。
   • リヤブレーキライトスイッチ
   3-21 ページ “リヤブレーキライトスイッチの調整” 参照。

JAS30074
ブレーキフルードレベルの点検
1. 平坦な場所で垂直に立てる。

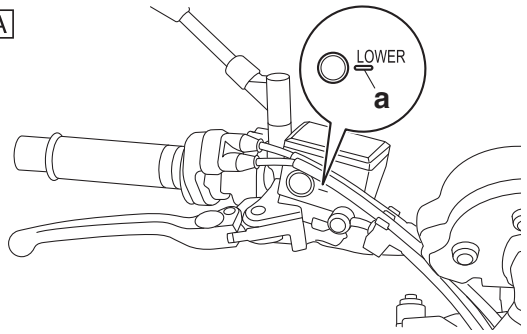
要　点

• メンテナンススタンドを使用して立てる。
• 車両は垂直に立てる。

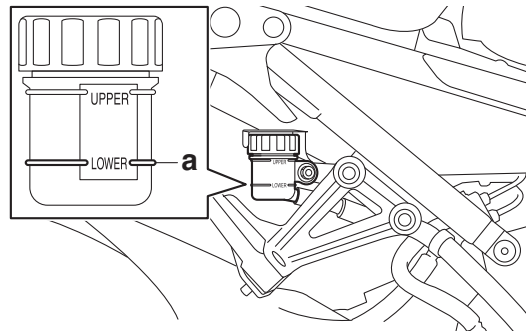
2. 以下の点検をする。
   • ブレーキフルード量
   最少レベルマーク “a” 以下 → 指定ブレーキフルードを適正レベルまで補充する。

フロントブレーキ
指定ブレーキフルード
BF-4 (DOT-4)
リヤブレーキ
指定ブレーキフルード
BF-4 (DOT-4)

A



B



A. フロントブレーキ
B. リヤブレーキ

JWA13090

⚠ 警 告

- **必ず指定のブレーキフルードを使うこと。他のフルードはシール類を劣化させ、フルードの漏れやブレーキ作動不良の原因となる。**
- **2 種類以上のブレーキフルードを混ぜて使用しないこと。混合ブレーキフルードは化学反応を起こし、ブレーキ作動不良の原因になる。**
- **ブレーキフルードを注入する際には水分が混入しないように注意すること。水分が混入されると、ブレーキフルードの沸騰点が低下し、ベーパーロックをひき起こす恐れがある。**

JCA13540

注 意

ブレーキ構成部品の清掃には、新しいブレーキフルードを使用する。ブレーキフルードは塗装やプラスチックに損傷を与える場合があるので、ブレーキフルードがこぼれた場合はすぐにふき取ること。

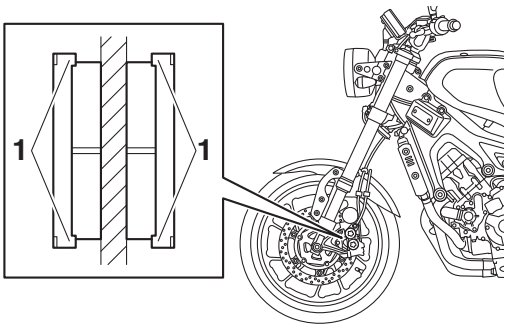
要 点

確実なブレーキフルードレベルを読み取るため、リザーバーの上面を水平に保つ。

JAS30075

フロントブレーキパッドの点検

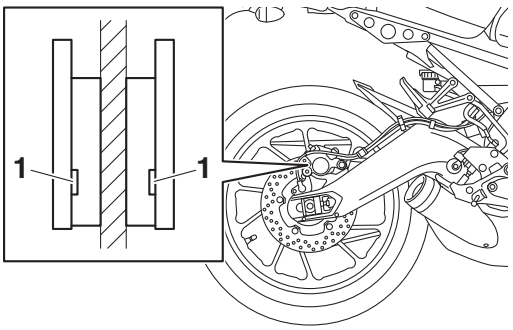
各ブレーキパッドの点検は以下の手順で行う。
1. ブレーキを作動させる。
2. 以下の点検をする。
   - フロントブレーキパッド
     ウェアインジケーター “1” とブレーキディスクのすき間がほとんどない。→ ブレーキパッドをセットで交換する
     4-26 ページ “ フロントブレーキ ” 参照。



JAS30076

リヤブレーキパッドの点検

各ブレーキパッドの点検は以下の手順で行う。
1. ブレーキを作動させる。
2. 以下の点検をする。
   - リヤブレーキパッド
     ウェアインジケーター溝 “1” がほとんどない → ブレーキパッドをセットで交換する。
     4-39 ページ “ リヤブレーキ ” 参照。



JAS30077

フロントブレーキホースの点検

各ブレーキホースとブレーキホースホルダーの点検は以下の手順で行う。
1. 以下の点検をする。
   - ブレーキホース
     亀裂／損傷／摩耗 → 交換
2. 以下の点検をする。
   - ブレーキホースホルダー
     緩み → 締め付け
3. 車両を垂直に立て、フロントブレーキまたは、リヤブレーキを操作する。

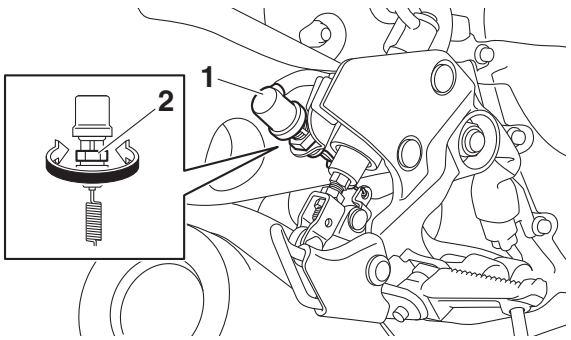
4. 以下の点検をする。
 • ブレーキホース
 ブレーキフルード漏れ → ホースを交換
 4-26 ページ “ フロントブレーキ ” 参照。

JAS30078
リヤブレーキホースの点検
1. 以下の点検をする。
 • ブレーキホース
 亀裂／損傷／摩耗 → 交換
2. 以下の点検をする。
 • ブレーキホースホルダー
 接続部の緩み → 締め付け
3. 車両を垂直に立て、リヤブレーキを操作する。
4. 以下の点検をする。
 • ブレーキホース
 ブレーキフルード漏れ → ホースを交換
 4-39 ページ “ リヤブレーキ ” 参照。

JAS30083
リヤブレーキライトスイッチの調整
要　点

リヤブレーキライトスイッチはブレーキペダルの動きで操作される。リヤブレーキライトはブレーキの作動開始の直前に点灯するよう、調整されている。

1. 以下の点検をする。
 • リヤブレーキライト作動タイミング
 作動不良 → 調整
2. 以下の調整をする。
 • リヤブレーキライト作動タイミング
  a. リヤブレーキライトスイッチのメインボディ “1” を回転しないよう固定し、リヤブレーキライトが正しいタイミングで点灯するまでアジャスティングナット “2” を回転し、調整する。



JAS30069
ブレーキの動作の点検
1. 以下の点検をする。
 • ブレーキの動作
 ブレーキが正しく作動しない → ブレーキシステムを点検
 4-26 ページ “ フロントブレーキ ”、4-39 ページ “ リヤブレーキ ” 参照。

要　点

乾いた路面で走行し、フロントブレーキとリヤブレーキを別々に作動させ、ブレーキが正しく作動するかどうか点検する。

JAS30085
油圧ブレーキシステムからのエアー抜き
JWA14000
⚠ 警 告

ブレーキ関連部品を取り外した場合は、常にブレーキシステムのエアー抜きを行うこと。

JCA18050
注 意

• 次の手順でブレーキシステムのエアーを抜く。
• 手順 1：フロントブレーキキャリパー
• 手順 2：リヤブレーキキャリパー

JWA16530
⚠ 警 告

次の場合には、必ず ABS のエアー抜きを行う。
• システムを分解した。
• ブレーキホースが緩んだり外れたりしたか、交換した。
• ブレーキフルードレベルが非常に低い。
• ブレーキの動作に異常がある。

要　点

• ブレーキフルードをこぼしたり、ブレーキマスターシリンダーリザーバーまたはブレーキフルードリザーバーからあふれないように注意すること。
• ABS のエアー抜きを行う場合は、ブレーキ操作を行うのに充分なブレーキフルードがあることを確認する。この確認を怠ると、ABS の中にエアーが混入し、エアー抜きの作業行程が非常に長くなる。
• 微少の気泡でエアー抜きが困難な場合には、ブレーキフルードを数時間安定させる。
• ホースの中の気泡が消えてから再度エアー抜きを行う。

1. 以下のエアー抜きを行う。
 • ABS
  a. 指定ブレーキフルードをブレーキマスターシリンダーリザーバーまたはブレーキフルードリザーバーに適切な量、補充する。
  b. ダイヤフラムを組み付ける。（ブレーキマスターシリンダーリザーバーまたはブレーキフルードリザーバー）
  c. ブリードスクリュー “2” に透明なビニールホース “1” をしっかり接続する。

リヤホイールアクスルナット
150 N·m (15 kgf·m, 111 lb·ft)

d. 規定値のトルクでロックナットを締め付ける。

チェーンプラーアジャスティングボルトロックナット
16 N·m (1.6 kgf·m, 12 lb·ft)

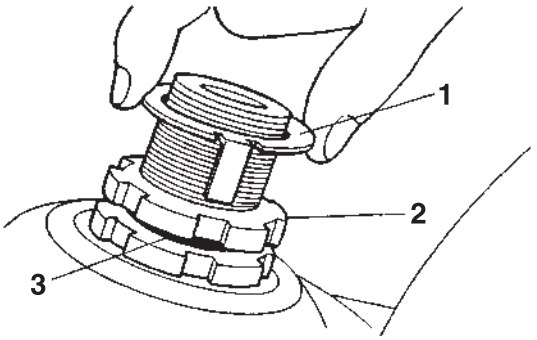
JAS30091
ドライブチェーンの潤滑
ドライブチェーンは連結部品で構成されている。ドライブチェーンが正しく整備されていない場合、チェーンは非常に摩耗する。車両がほこりの多い場所で使用された時は、確実にドライブチェーンの整備をする必要がある。
この車両にはサイドプレートの間に小さいゴムの O リングのあるシールチェーンを使用している。スチーム洗浄、高圧洗浄、シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用しての洗浄は行わない。ドライブチェーンの洗浄には洗油のみ使用する。ドライブチェーンを乾燥させた後、シールチェーン用のチェーン潤滑剤で潤滑する。それ以外の潤滑剤は、O リングに損傷を与える溶剤が含まれている場合があるため、ドライブチェーンには使用しない。

推奨潤滑剤
ヤマルーブ 180 チェーンオイル

JAS30096
ステアリングヘッドの点検と調整
1. 平坦な場所で垂直に立てる。
JWA13120
⚠ 警 告
車両が倒れないよう、確実に支えること。

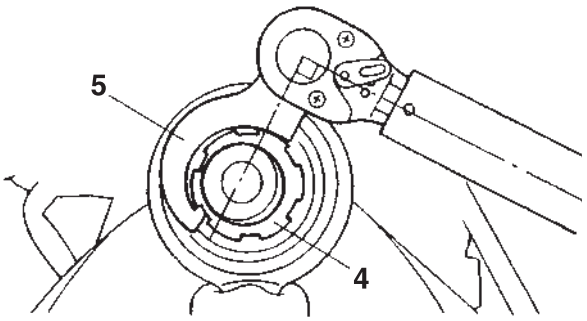
要　点
メンテナンススタンドを使用して車両を立て、フロントホイールを浮かせる。

2. 以下の点検をする。
 • ステアリングヘッド
 両側のフロントフォークのアウターチューブ付近をつかんで、フロントフォークを静かにゆらす。
 緩み、がた → ステアリングヘッドを調整。
3. 以下の部品を取り外す。
 • アッパーブラケット
4. 以下の調整をする。
 • ステアリングヘッド
 a. ロックワッシャー “1”、アッパーリングナット “2”、ラバーワッシャー “3” を取り外す。



 b. ロアーリングナット “4” を一回転緩めた後、ステアリングナットレンチ “5” を使用して、規定値のトルクで締め付ける。

要　点
• トルクレンチをステアリングナットレンチに対して直角にセットする。
• ステアリングを左右に数回動かして、スムーズに動くことを確認する。



ステアリングナットレンチ
90890-01403
エキゾーストフランジナットレンチ
YU-A9472

ロアーリングナット（1 回目の締め付けトルク）
52 N·m (5.2 kgf·m, 38 lb·ft)

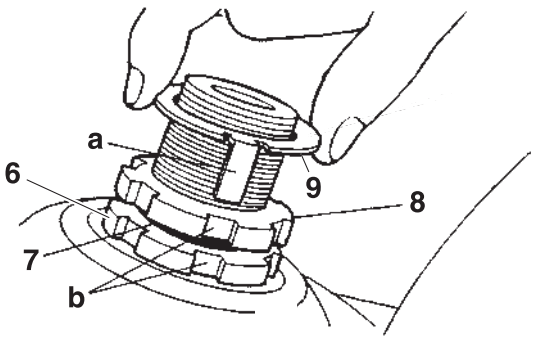
 c. ロアーリングナット “6” を完全に緩めた後、規定値のトルクで締め付ける。
JWA13140
⚠ 警 告
ロアーリングナットを規定トルク以上に締め付けないこと。

ロアーリングナット（最終の締め付けトルク）
18 N·m (1.8 kgf·m, 13 lb·ft)

d. フロントフォークを左右方向に動かし、ステアリングヘッドのがたを点検する。がたがある場合は、ロアーブラケットを取り外し、アッパーベアリングとロアーベアリングを点検する。
4-76 ページ “ステアリングヘッド” 参照。
e. ラバーワッシャー “7” を組み付ける。
f. アッパーリングナット “8” を組み付ける。
g. アッパーリングナットを指で仮締め付けし、上下のリングナットの溝を合わせる。必要に応じてロアーリングナットを固定しながら溝が合う位置でアッパーリングナットを締め付ける。
h. ロックワッシャー “9” を組み付ける。

要　点

ロックワッシャーのタブ “a” がリングナットの溝 “b” にセットされているか確認すること。

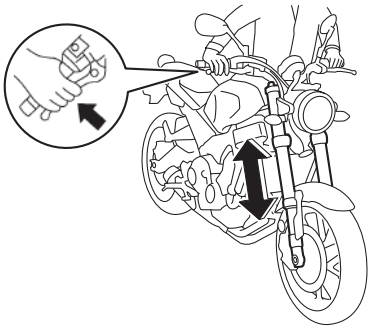


5. 以下の部品を組み付ける。
 • アッパーブラケット
4-59 ページ “ハンドルバー” 参照。

JAS30097
ステアリングヘッドの潤滑
1. 以下の部品を潤滑する。
 • アッパーベアリング
 • ロアーベアリング
 • ベアリングレース

推奨潤滑剤
ヤマハグリース B

JAS30099
フロントフォークの点検
1. 平坦な場所で垂直に立てる。
JWA13120
⚠警 告
車両が倒れないよう、確実に支えること。
2. 以下の点検をする。
 • インナーチューブ
 損傷／傷 → 交換
 • フロントフォーク
 インナーチューブとアウターチューブ間でオイル漏れ → オイルシールを交換
3. 車両を垂直に維持し、ブレーキをかける。
4. 以下の点検をする。
 • フロントフォークの動作
 ハンドルバーを数回強く押し下げ、フロントフォークがスムーズにリバウンドするか点検する。
 作動不良 → 修理
4-64 ページ “フロントフォーク” 参照。



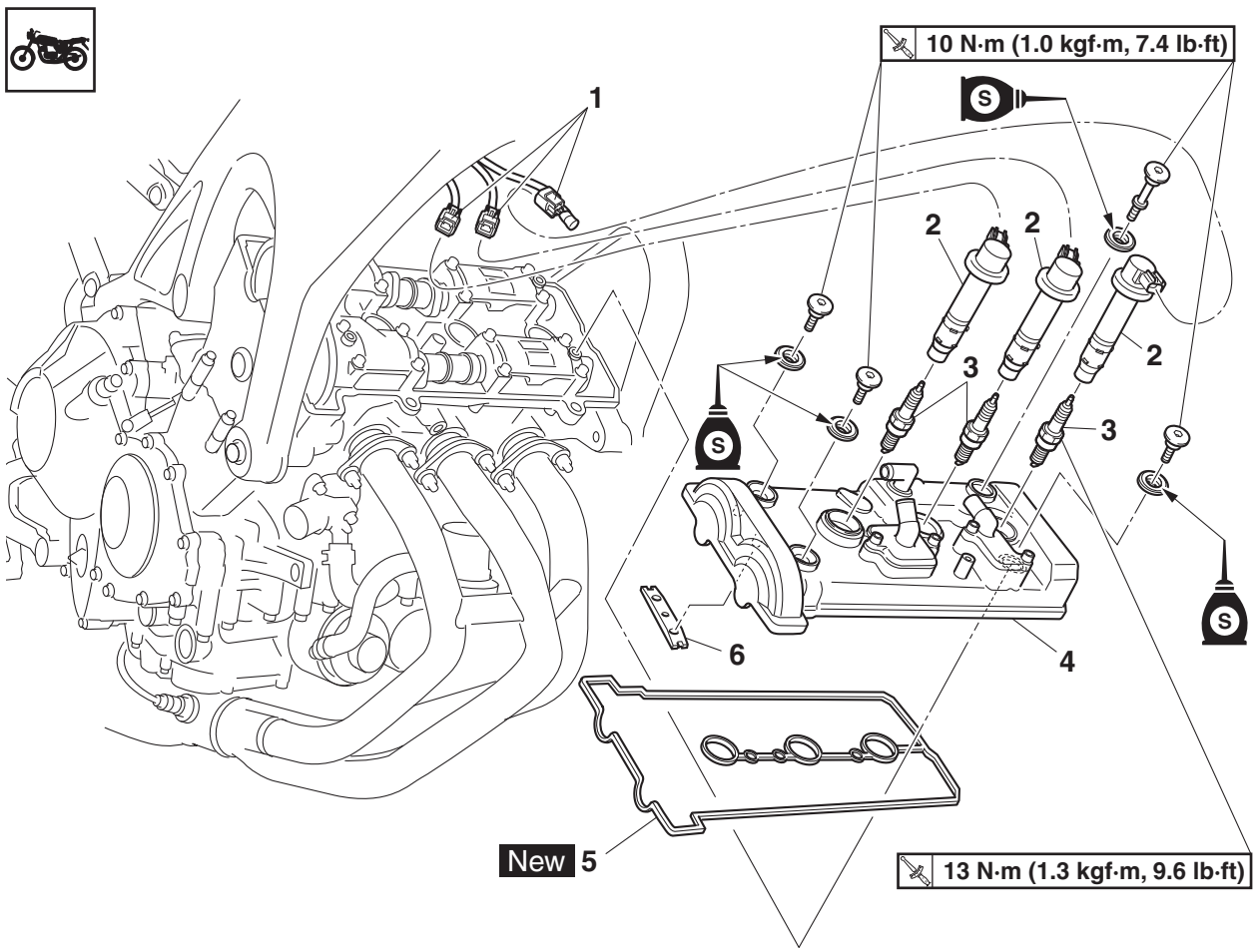
JAS30101
フロントフォークの調整
フロントフォークの調整は以下の手順で行う。
JWA13120
⚠警 告
車両が倒れないよう、確実に支えること。

スプリング初期荷重
JWA17040
⚠警 告
常に両方のフロントフォークを同じように調整すること。調整が異なると、操作性が低下し、車両の安定性が損なわれる危険がある。
JCA13590
注 意
最強あるいは最弱の調整範囲を絶対に超えないこと。
1. 以下の調整をする。
 • スプリング初期荷重
 a. アジャスティングボルト “1” を “a” または “b” の方向に回して調整する。

“a” 方向
スプリング初期荷重は大きくなる（サスペンションは硬くなる）。
“b” 方向
スプリング初期荷重は小さくなる（サスペンションはやわらかくなる）。

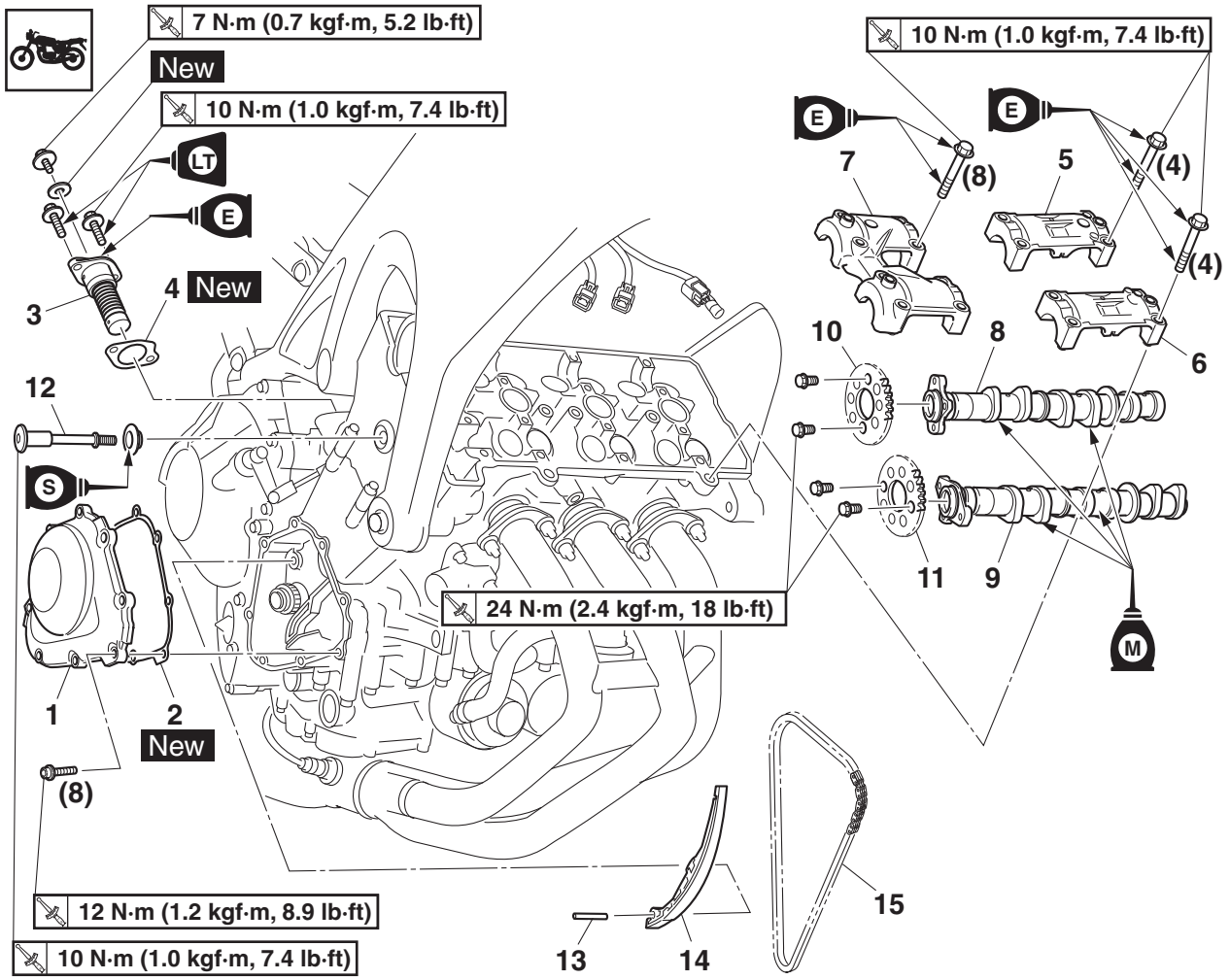
JAS20043
カムシャフト

シリンダーヘッドカバーの取り外し



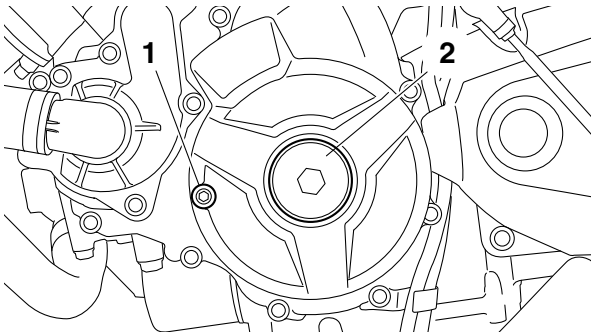
作業手順	作業名／部品名称	個数	備考
	ライダーシート		4-1 ページ “カバー類の脱着（1）” 参照。
	フューエルタンクカバー		4-3 ページ “カバー類の脱着（2）” 参照。
	フューエルタンク		7-1 ページ “フューエルタンク” 参照。
	エアーフィルターケース		4-3 ページ “カバー類の脱着（2）” 参照。
	ラジエター		6-3 ページ “ラジエター” 参照。
	エアーカットオフバルブ		7-15 ページ “エアーインダクションシステム” 参照。
1	イグニッションコイルカプラー	3	接続を外す。
2	イグニッションコイル	3	
3	スパークプラグ	3	
4	シリンダーヘッドカバー	1	
5	シリンダーヘッドカバーガスケット	1	
6	タイミングチェーンガイド（トップ側）	1	

カムシャフトの取り外し



作業手順	作業名／部品名称	個数	備考
	クランクシャフトエンドカバー／タイミングマークアクセシングボルト		5-35 ページ “ジェネレーターとスタータークラッチ” 参照。
1	タイミングチェーンカバー	1	
2	タイミングチェーンカバーガスケット	1	
3	タイミングチェーンテンショナー	1	
4	タイミングチェーンテンショナーガスケット	1	
5	インテークカムシャフトキャップ	1	
6	エキゾーストカムシャフトキャップ	1	
7	カムシャフトキャップ	1	
8	インテークカムシャフト	1	
9	エキゾーストカムシャフト	1	
10	インテークカムシャフトスプロケット	1	
11	エキゾーストカムシャフトスプロケット	1	
12	タイミングチェーンボルト	1	
13	ダウエルピン	1	
14	タイミングチェーンガイド（インテーク側）	1	
15	タイミングチェーン	1	

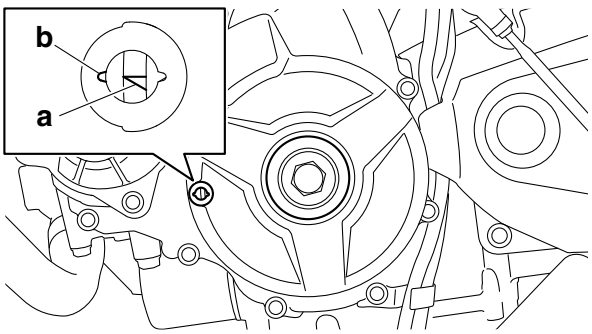
JAS30256
カムシャフトの取り外し
1. 以下の部品を取り外す。
 • タイミングマークアクセシングボルト “1”
 • クランクシャフトエンドカバー “2”



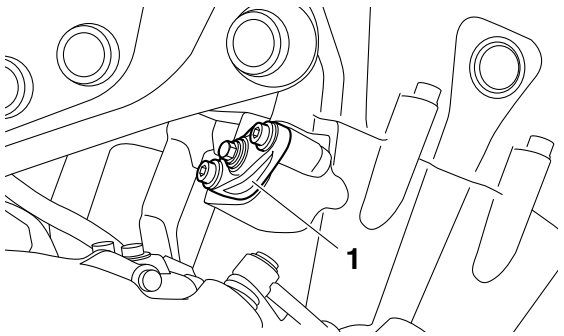
2. 以下の位置を合わせる。
 • ジェネレーターローターのマーク “a”（ジェネレーターローターカバーのマーク “b” に合わせる）
 a. クランクシャフトを反時計方向に回転させる。
 b. ピストン #1 が圧縮行程にある時、ジェネレーターローターの BTDC125° マーク “a” をジェネレーターローターカバーのマーク “b” に合わせる。

要　点

BTDC125° は、カムシャフトローブがお互いに外を向いている時に確認できる。

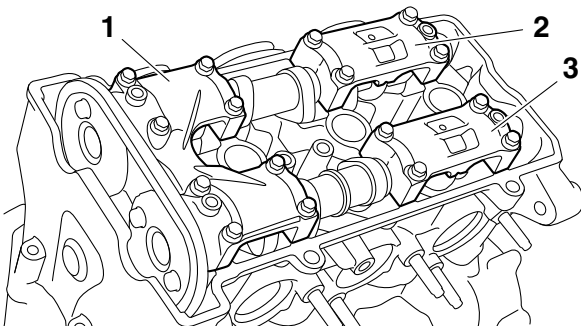


3. 以下の部品を取り外す。
 • タイミングチェーンテンショナー “1”
 • タイミングチェーンテンショナーガスケット



4. 以下の部品を取り外す。
 • カムシャフトキャップ “1”
 • インテークカムシャフトキャップ “2”
 • エキゾーストカムシャフトキャップ “3”

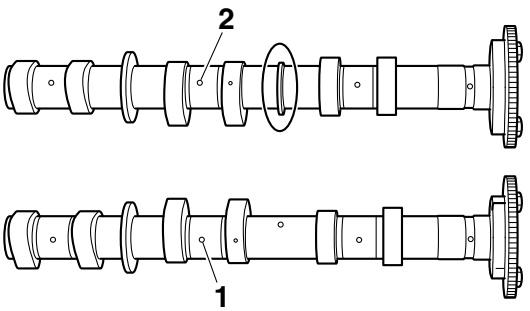
JCA13720
注 意
シリンダーヘッド、カムシャフトとカムシャフトキャップの破損を防ぐため、カムシャフトキャップボルトは数回に分け、対角線上に外側から内側に順番に緩めていく。

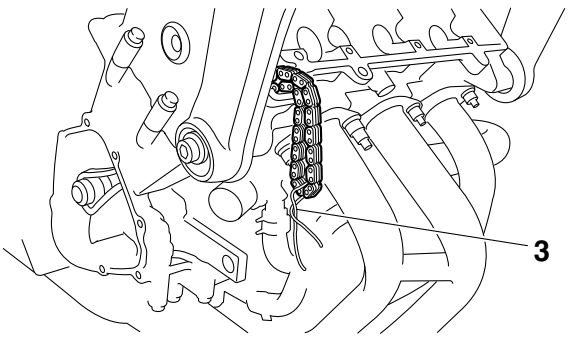


5. 以下の部品を取り外す。
 • インテークカムシャフト “1”
 • エキゾーストカムシャフト “2”

要　点

タイミングチェーンがクランクケース内に脱落するのを防ぐため、タイミングチェーンを針金 “3” で吊っておく。



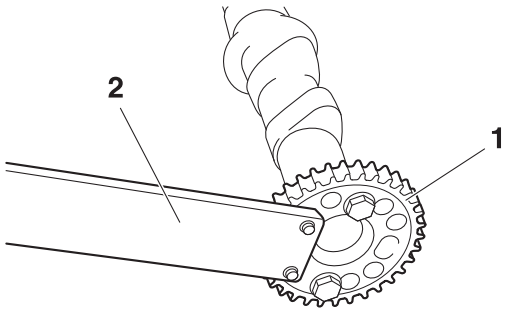


6. 以下の部品を取り外す。
 • カムシャフトスプロケット “1”

要　点

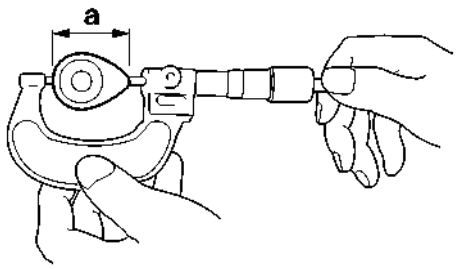
カムシャフトレンチ “2” を使用し、カムシャフトスプロケットボルトを緩める。

カムシャフトレンチ
90890-04162
カムシャフトレンチ
YM-04162



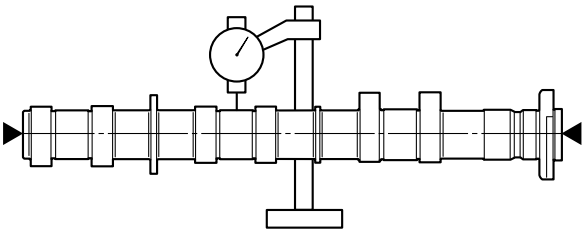
JAS30257
カムシャフトの点検
1. 以下の点検をする。
 • カムシャフトローブ
 青く変色／ピッチング／かき傷 → カムシャフトを交換
2. 以下の測定をする。
 • カムシャフトローブの寸法 “a”
 規定値外 → カムシャフトを交換

カム寸法
カムローブ高さ（IN）
36.290 − 36.390 mm (1.4287 − 1.4327 in)
使用限度
36.190 mm (1.4248 in)
カムローブ高さ（EX）
35.720 − 35.820 mm (1.4063 − 1.4102 in)
使用限度
35.620 mm (1.4024 in)



3. 以下の測定をする。
 • カムシャフトの振れ
 規定値外 → 交換

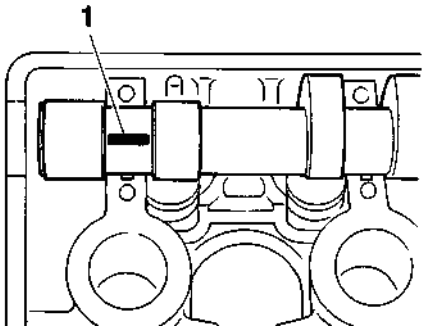
カムシャフト振れ限度
0.030 mm (0.0012 in)



4. 以下の測定をする。
 • カムシャフトジャーナルとカムシャフトキャップのすき間
 規定値外 → カムシャフトジャーナルの外径を測定

カムシャフトとキャップのすき間
0.028 − 0.062 mm (0.0011 − 0.0024 in)
使用限度
0.080 mm (0.0032 in)

a. カムシャフトをシリンダーヘッドに組み付ける
（カムシャフトキャップを除く）。
b. 図のように、プラスチゲージ® “1” をカムシャフトジャーナルに置く。



c. ダウエルピンとカムシャフトキャップを組み付ける。

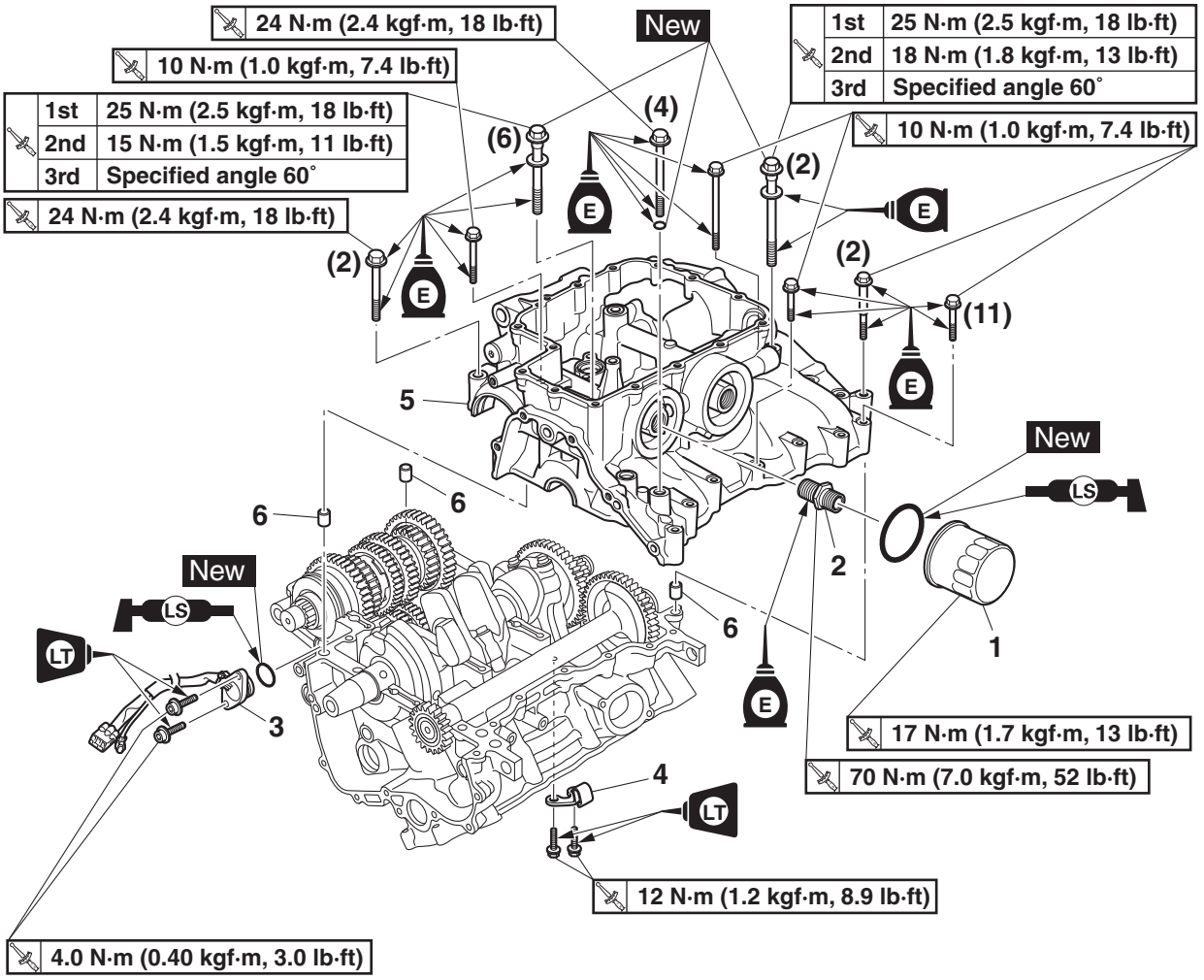
要　点
- カムシャフトキャップボルトを締め付ける場合、対角線上に内側のボルトから締め付けること。
- プラスチゲージ® でカムシャフトジャーナルとカムシャフトキャップのすき間を計っているときにカムシャフトを回転させないこと。

カムシャフトキャップボルト
10 N·m (1.0 kgf·m, 7.4 lb·ft)

d. カムシャフトキャップを取り外し、プラスチゲージ® “2” の幅を測定する。

JAS20059
クランクケース

クランクケースの分割

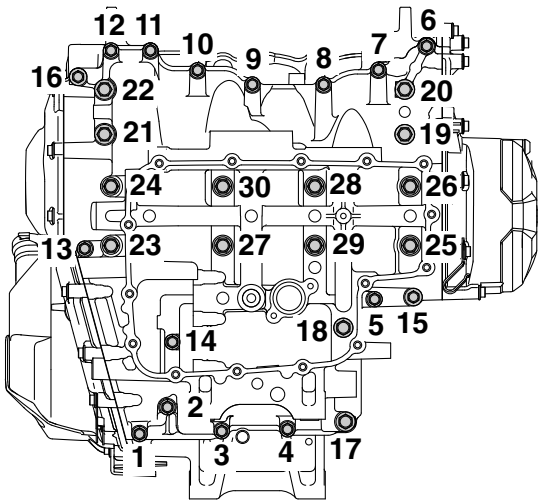


作業手順	作業名／部品名称	個数	備考
	エンジン		5-9 ページ “エンジンの取り外し” 参照。
	シリンダーヘッド		5-25 ページ “シリンダーヘッド” 参照。
	ウォーターポンプ		6-10 ページ “ウォーターポンプ” 参照。
	スタータークラッチ		5-35 ページ “ジェネレーターとスタータークラッチ” 参照。
	スターターモーター		5-40 ページ “スターターモーター” 参照。
	クラッチハウジング		5-44 ページ “クラッチ” 参照。
	オイルストレーナー		5-61 ページ “オイルパン” 参照。
1	オイルフィルターカートリッジ	1	
2	オイルフィルターカートリッジユニオンボルト	1	
3	ギヤポジションスイッチ	1	
4	クラッチケーブルホルダー	1	
5	ロアークランクケース	1	
6	ダウエルピン	3	

JAS30389
クランクケースの分解
1. エンジンを逆さに置く。
2. 以下の部品を取り外す。
   • クランクケースボルト（×30）

要　点

• 各ボルトを 1/4 回転ずつ、数回に分け、対角線上に緩める。すべてのボルトが完全に緩んだ後で取り外す。
• ボルトは正確に図示の順序で緩める。
• クランクケースに型押された番号は、締め付け順序を示す。





3. 以下の部品を取り外す。
   • ロアークランクケース

JCA13900
注 意

プラスチックハンマーでクランクケースの片側（厚い部分）を軽くたたく。たたく箇所はクランクケースの補強部分のみとする。作業は、慎重に行ない、クランクケースが完全に分割されたか確認する。

4. 以下の部品を取り外す。
   • ダウエルピン
5. 以下の部品を取り外す。
   • クランクシャフトジャーナルロアーベアリング
   • バランサーシャフトジャーナルベアリング（ロアークランクケースより）

要　点

各部品を元の位置に組み付けるため、組み付け位置を記録しておくこと。

JAS30390
クランクケースの点検
1. 分割したクランクケースは、薄めた洗油で充分洗浄する。
2. ガスケット表面やクランクケースの合面などを充分に清掃する。
3. 以下の点検をする。
   • クランクケース
     亀裂／損傷 → 交換
   • オイル経路
     詰まり → 圧縮空気を吹いて清掃

JAS30397
クランクケースの組み立て
1. 以下の部品を潤滑する。
   • クランクシャフトジャーナルベアリング内面（推奨潤滑剤を使用する）

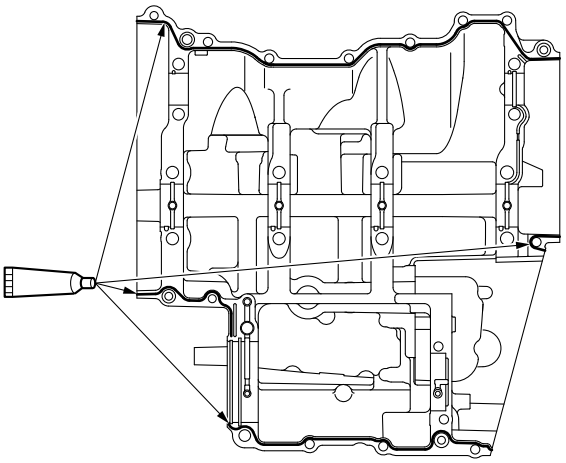
	推奨潤滑剤 **エンジンオイル**

2. 以下を塗布する。
   • シーラント
     （クランクケース合面に）

	スリーボンド 1215® **90890-85505**

要　点

シール剤をオイルギャラリー、クランクシャフトジャーナルベアリング、バランサーシャフトジャーナルベアリングに付着させない。



3. 以下の部品を組み付ける。
   • ダウエルピン